

Common variable 低 γ グロブリン血症患者におけるサプレッサー細胞機能のシメチジンによる調整

Modulation of suppressor-cell activity by cimetidine in patient with common variable hypogammaglobulinemia: White WB, Ballow M (N Engl J Med 312: 198-202, 1985)

H₂ 受容体拮抗剤シメチジンには、モルモットやラットで免疫グロブリンの産生などを変化させる作用があることが知られており、ヒトのリンパ球機能に対する影響に関しても多くの予備的研究がある。common variable 低 γ グロブリン血症は気道や消化管の感染を反復し種々の程度

の低 γ グロブリン血症を呈する疾患で、B細胞あるいはT細胞の機能異常が原因と推定されている。

いずれも反復性の細菌感染の既往がある5名の本症成人例のリンパ球を正常ヒトリンパ球と一緒に培養したところ、3例において免疫グロブリンの産生低下が認められ、これら3例におけるサプレッサー細胞の活性亢進が推定された。

5名にシメチジン1,200 mg/分4を1か月間投与したところ、上記3例ではサプレッサー細胞の活性が著しく低下し、OKT8で示されるサプレッサー細胞数も正常化した。うち1例では血清IgGも19 mg/dlから212 mg/dlに上昇し、リンパ球培養での刺激に対するIgG産生が著増した。シメチジン投与を中止する

と3か月で前値に戻ったが、再開すると再び増加したことから、可逆性、再現性が確認された。本例は過去10年間に肺炎とGiardiasisを反復していたが、18か月の本研究期間中には、軽度の上気道感染を3回生じたのみであった。

これに対して、サプレッサー細胞活性亢進のない他の2例、および対照とした十二指腸潰瘍患者群では、免疫グロブリン分泌やサプレッサー細胞活性は、シメチジンの投与で変化しなかった。

サプレッサー機構の異常が推定される他の疾患に対しても、H₂ 受容体拮抗剤の有用性を検討してみる価値があろう。

(関東通信病院消化器内科

土谷春仁 抄)